

「式 辞」

本日は、横浜国立大学の理工学部並びに大学院都市イノベーション学府・研究院の設置記念式典と記念シンポジウムを開催いたしましたところ、お忙しい中、文部科学省、地元・横浜市をはじめ、多数の方々のご臨席を賜りました。大学としてこの上ない喜びであるとともに、ご臨席の皆様からの、本学に対する温かいご指導・ご支援に、心から感謝を申し上げます。式典を挙げるにあたり、一言ご挨拶を申し述べさせていただきます。

横浜国立大学は、高度の産業が集積する神奈川・国際都市・横浜にて生まれ育った大学です。開基137年、創立62年の歴史を持っています。

すでにご存じの方も多いことと思いますが、横浜国立大学の前身・教員養成所が神奈川県下に設置されたのは、開港から15年後の明治7年・1874年です。その後、神奈川師範学校、横浜経済専門学校、横浜工業専門学校など大学の前身となる学校が創設されました。そして、1949年神奈川・横浜に基盤を置く国立新制大学・総合大学として横浜国立大学は開学しました。62年前の開学時は、学芸学部、経済学部、工学部の3学部だけでしたが、7年前の国立大学法人化を経て、今年4月から4学部（教育人間科学部、経済学部、経営学部と新しい理工学部）と5大学院（教育学研究科、国際社会科学部研究科、工学部・研究院、環境情報学府・研究院と新しい都市イノベーション学府・研究院）から構成される大学へと発展することができました。本学の特徴・地の利を生かした教育研究活動を充実・発展させることで、社会からも活力のある大学として評価をいただいているところであります。

横浜国立大学は、高等教育機関として、実践性・先進性・開放性・国際性を精神とする教育と研究により、「実践的学術の国際拠点」たることを目標に掲げています。開学以来自由な学風の下、世界をフィールドにした教育研究を先進的に推進し、明日の社会が必要としている研究を行い、多くの成果を発信してきました。同時に、時代の変遷のなか、高度で実践的な能力や職務遂行能力を持った人材、社会の中核となって活躍する多くの人材を育成してきました。

今日、文化・科学・経済は地球規模で動いており、環境は大きく変動しています。21世紀知識基盤社会において、本学は、「実践的学術の国際拠点」を基本方針とし、広く世界で活躍できる実践的人材の輩出という「知の伝承」と先進的かつ国際的な研究活動による「知の発展」を推進しています。この一環として、2011年度には「理工学部」と大学院「都市イノベーション学府」を設置しました。

これまで工学部において理学的基礎学術を踏まえた工学の人材を育成してきました。今回、理工学部の改組・設置により、学内の理学・工学教育の統合と一層の充実を図り、深い専門能力と高い倫理性を持ち、理工学分野で活躍する幅広い人材育成を推進させます。大学院都市イノベーション学府・同研究院は、国際文化都市・横浜を実践的学術のフィールドとし、持続性と創造性を基軸とした都市機能の整備・設計を担う高度専門職業人を中心とする人材を育成します。

横浜国立大学は、この改革を成功させることによって、困難な時代を乗り越え、英知と希望に輝く翼を大きく広げ、羽ばたいていきたいと願っております。

さて、東日本大震災は、わが国に未曾有とも言える被害をもたらし、社会経済システムから人々の生き方、価値観にまで多くの変革をもたらす等、日本そして地球社会に大きなインパクトを与えています。また、社会では、スペシャリストと言われる専門家の知識・技術だけでは解決できない問題で溢れています。このように知識、感性、情報、技術が輻輳する動的な社会では、基礎的な知識に裏付けされた高度な専門知識・理解に加えて、柔軟・広範で倫理性の高い判断力が必要となります。社会が必要とするプロフェッショナルとは、個々の専門性に加えて他の専門性をも理解し、協働ができる複眼の視点であります。横浜国立大学では、今回の改組・新設を大きな機会として、これまで以上に21世紀の複雑な課題の解決に向けて貢献できる人材養成と研究推進、社会貢献に務め、時代の要請と地域社会の期待に的確に答えていく所存です。本学教職員、関係者は一丸となり、歴史と伝統を踏まえ、大学の更なる飛躍に向けて精進・努力する所存であります。

最後になりましたが、新学部・新大学院の設置にあたりご尽力を賜りました国並びに文部科学省、地元・神奈川県、横浜市、経済・産業界、同窓会、大学関係各位に重ねて深く感謝申し上げますと共に、ご臨席の皆様の今後のさらなる温かいご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。私の挨拶に代えさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

平成23年11月9日

国立大学法人 横浜国立大学長 鈴木邦雄